

「災害時医療支援船構想」を地域に根付いた活動として定着させるため、兵庫県の医療関係者および患者の皆さんにこの活動を周知・啓蒙することを目的に、2010年1月17日、阪神淡路大震災から15年目を迎えた日に、兵庫県透析医会が主催して、神戸港における患者搬送訓練ならびにシンポジウムが実施されました。

午前中は、支援船に登録されているキャプテンラインの客船「キャプテンシルバー」により神戸メリケン波止場からハット神戸まで神戸港を航海しながら患者さんを搬送する訓練を行いました。そして、午後は、ハット神戸地区に隣接したシマブンホールにおいて「災害時医療支援船構想」の説明や活動の内容についてシンポジウム形式で意見交換会が実施されました。

訓練にはおよそ100名が、シンポジウムにはおよそ150名が参加し、兵庫県透析医会は、これからもこの活動の継続を通じて兵庫県下の医療関係者ならびに患者さんに災害時に向けた取り組みの重要性を啓蒙していくことにしています。

災害時医療支援船西日本プロジェクト 2009年度について

1. 訓練概要

- ①メーリングリスト訓練(1/7)
午前9時20分～12時20分
- ②乗船訓練(1/17)
午前9時20分～12時20分
神戸港かもめりあ(HAT神戸)
- ③シンポジウム 午後1時～3時30分
BBプラザシマブンビル(阪神本線岩屋駅下車)

1. 開会のご挨拶 兵庫県透析医会会長 宮本孝
2. 演題1 災害時医療支援船構想について～overview～
兵庫県透析医会危機管理委員会 赤塚東司雄
3. 演題2 陸と海を繋ぐために—海陸支援システムの紹介—
神戸大学海事科学部 臼井英夫
4. 演題3 兵庫県透析医会の災害対策
—災害用メーリングリストによる情報伝達—
兵庫県透析医会危機管理委員会 斉藤雅文
5. 質疑応答
6. 閉会のご挨拶 神戸大学海事科学部 井上欣三



災害時医療支援船「キャプテン・シルバー」



「キャプテン・シルバー」移動中の船内

2. 西日本プロジェクト2010.1.17レポート

2010年1月17日午前9時20分、JR元町駅に集まった透析患者、透析医療者は、マイクロバスに分乗して神戸港(かもめりあ)に向かい、現地集合の参加者および神戸大学海事科学部のスタッフなどを合わせて約90名の参加者となった。

神戸港の岸壁に今回の災害時医療支援船「キャプテン・シルバー」が着岸、参加者達は棧橋に移動し、船に乗り込んだ。

目的地はHAT神戸の岸壁、透析患者にとっても快適な乗船訓練となった。



乗降時の安全を確認する参加者達

今回のシミュレーションでは、1月13日に地震が発生したと仮定して、事前にメーリングリストによって被災透析施設(参加施設)の被害状況を確認し神戸大学海事科学部に災害時医療支援船を要請したという形がとられた。

さらに1月17日午前10時に神戸港に集合、透析患者を移送するという連絡が各施設に流され、その情報を得た患者が現地に集まるという想定のもと行われた。

「災害発生から72時間以内に船が動くところ」を目標としたメーリング



